



プロジェクト課題No.3

次代を担う生産者の育成による 梨産地活性化

写真：R6.4上旬 利府町生育調査ほ

活動期間：令和5年度～令和7年度

対象者：JA仙台利府梨部会 部会員4人（同部会員61人）

チーム員：高橋真紀、伊藤あゆ美、高橋晋太郎

1 課題の背景・ねらい

〈背景・ねらい〉

- J A 仙台利府梨部会員は61人、面積は約20ha。園主の高齢化等の問題があるものの、利府梨の引き合いが強いことから園地承継・拡大が望まれている。
- 支援対象者の4名は、新技術・省力化技術等への関心が高く、重要な担い手として育成することにより産地の活性化に貢献できる。
- 当地域で設立される果樹産地協議会を通じ、果樹経営支援対策事業（国）の活用による産地の維持・発展が図られる。

【令和6年度 定性的目標】

- 基礎的な技術の習得と新技術・新品種への理解が深まる。
- 担い手の交流活動が促進される。
- 果樹経営支援対策事業の活用がなされ、園地の効率化が図られる。 1

2 活動内容

新技術として他に「新品種の導入」「防鳥ワイヤー」「交信かく乱剤（コンフューザー）利用」などがある

（1）安定生産・高品質化技術の理解促進

①省力化・新技術導入

目的	期待される効果	内容（技術）
天敵ダニ製剤の活用	環境に配慮した防除と薬剤散布作業の軽減	・天敵ダニ製剤 ・天敵ダニに配慮した農薬選択 ・下草管理
枝の伸長拡大	新梢の伸長を促し、樹冠拡大を図る	ジベレリンペースト処理
期待される早生・新品種 「甘ひびき」	大きくて、糖度も高い期待の品種 「幸水」に変わるかもしれない有望品種	・収穫期の把握 ・品種特性

2 活動内容

(1) 安定生産・高品質化技術 の理解促進 ②技術情報資料発行

気象情報の他、生育調査ほの「幸水」「あきづき」肥大情報、病害虫の発生状況や巡回して気づいた点などを情報共有

- ・3月の話題・・・凍霜害対策について
- ・4月の話題・・・開花情報(生育調査ほの情報共有)
- ・6月の話題・・・コンフューザーの解説、果樹カメムシ防除
- ・8月号の話題・・・「アオバハゴロモ」の発生について注意喚起、収穫期の情報共有 等

J A を通じて梨部会員全戸配布

利府なし生育情報(8月号)

令和5年8月17日発行

【発行】宮城県仙台農業改良普及センター

電話 022-275-8374

1 これまでの天候



2 これまでの生育状況

■果実肥大状況

調査地点: 利府町春日、調査日: 8月10日(「幸水」満開117日後、「あきづき」満開118日後)

品種		タテ径(mm)	ヨコ径(mm)
幸水	令和5年	83.1	77.2
	前年比(%)	105	107
	平年比(%)	110	111
あきづき	令和5年	85.4	78.2
	前年比(%)	104	104
	平年比(%)	107	107

【巡回メモ】

◎満開は平年より10～14日程度早いので、肥大は進んでいる。

◎病害虫発生状況

- ・黒星病の発生量は少ない。
- ・ダニ類がスポット的に発生している。

2 活動内容

（２）担い手の交流活動の促進



【 7 月 県なし現地検討会の様子 】

（３）産地活性化に向けた補助事業の活用支援

- 果樹経営支援等対策事業の申請支援、要望掘り起こし
- 町内の梨生産者が集まる防除暦説明会（ＪＡ仙台主催）で、来年度の補助事業内容を説明（利府町農林水産課）。
- 各要望に対する相談対応

3 これまでの活動成果

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

天敵ダニを初めて導入、
順調に定着したことが農
業・園芸総合研究所園芸
環境部の虫害チームに
よって確認。

**効果を確認！
ダニ剤散布
R5実績10回→
R6は3回に削減**

来年度より利府町で天
敵製剤の補助を決定！
(10a当たり
10,000円助成)



天敵製剤

【天敵ダニ導入圃場の様子】 樹幹の雑草草丈をやや長めの15cm程度に刈り残し、通路は短く刈り込む。
天敵ダニであるカブリダニが生活しやすいよう環境を整える。

3 これまでの活動成果

(2) 担い手の交流活動の促進

- 他産地の生産者との交流により、技術や経営改善に対して大いに刺激を受ける
→**梨部会・青年部（仮称）立ち上げの動き**



新潟市の**青年部3名**と交流
来年は、「防鳥ワイヤー」に関して
視察受け入れ予定

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援

～補助事業導入決定後の人の動き～

人 物

動 き

若手後継者
(町内)

未利用地を新たに梨園として開墾、園地拡大を目指す(約100a)。

地域おこし協力隊(2名)

新たに園地約70aを引き受ける。独立時には補助事業活用したい。

新規就農者
(町外から)

観光果樹園を経営継承する(10a)。園地はいずれ増やしたい、改植したい。

4 今後の対応

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

- ・引き続き新技術導入の調査支援、効果測定を行っていく
- ・「生育情報」で技術の効果、内容を情報発信する
- ・天敵ダニ製剤の導入にあたって、基本事項を学ぶ研修会を開催する（2月27日）
- ・新たに導入する生産者に対して巡回指導の重点指導を想定（導入する人数が多い場合は講習会も）

(2) 担い手の交流活動への理解促進

- ・他産地の梨部会青年部へ視察研修・交流

(3) 産地活性化に向けた補助事業の活用支援

- ・来年度に向けて事業活用者のニーズの把握
- ・導入希望者の掘り起こし、相談対応